



信夫第二小学校 学校便り

きらら

〈教育目標〉

「めあてを持ち、やりぬく子ども」の育成

- よく考える子ども (学習：学力)
- 思いやりのある子ども (生活：人間力)
- 体をきたえる子ども (健康：体力)

No.13 令和3年8月26日(木)発行

新型コロナウイルス感染拡大防止！

福島県内でも感染力の強いデルタ株が猛威を振るっています。保護者の皆様におかれましても、まん延防止に取り組まれているところかと思えます。現在のところ、新たな対応は示されておりませんので、引き続き、「新しい生活様式」を踏まえた行動をより慎重により確実に実施していくことが、唯一の感染対策だと思います。学校でも、対策がマンネリ化したり形骸化したりすることのないようにしてまいります。また、最新の情報については、保護者の皆様にも提供してまいります。

情報1 不織布マスクが効果的！

すでにご存じの方も多くいらっしゃると思いますが、昨年12月に、国立研究開発法人「理化学研究所」が発表した、スーパーコンピューター「富嶽」による、マスク素材ごとの飛沫防止効果のシミュレーション結果が話題を呼びました。それによると、「吐き出し飛沫量」は、**不織布マスクでは約80%カット**、である一方でウレタンマスクでは約50%しかありませんでした。つまり、**不織布マスクでは吐き出し飛沫量は20%程度に抑えられる**にもかかわらず、ウレタンマスクではその2-3倍の量を吐き出してしまい、それだけ感染させるリスクが上がってしまうということです。

素材が不織布のマスクが最も高い効果を持ち、**不織布マスク、布マスク、ウレタンマスクの順に効果が下がる**そうです。また、同じ素材のマスクであっても、つけ方や、マスクのフィルターの性能、厚さなどによっても効果に差が出るとされています。どんなマスクをどのようにつけるべきなのかを、この機会にもう一度ご検討いただきたいと思います。

マスクの正しい着用

- マスクを鼻にすき間なくフィットさせ、しっかりと着用してください。
- 品質の確かな、できれば**不織布**を着用してください。



まん延防止等重点措置区域である

情報2 外出を控える！

都道府県では、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、混雑した場所等への外出の半減が強く呼びかけられています。また、同法に基づき、日中も含めた**不要不急の外出の自粛**、外出する場合にも極力家族や**普段行動を共にしている仲間と少人数で、混雑した場所や時間を避けて行動すること**などについて協力の要請が行われています。不要不急の都道府県間の移動、特に緊急事態措置区域との往来については、極力控えるように促されています。

ポイントをおさえた生活

- 外出は**すいた時間と場所**を選んでください。
- 特に平日・休日ともに
- 混雑した場所での食事**は控えてください。



情報3 健康観察の徹底！

登校前の検温等や健康観察を徹底し、発熱がなくとも体調不良や風邪症状（頭痛、のどの痛み、鼻水等）がある児童には医療機関への受診と休養をお勧めしております。また、児童の同居する家族に発熱等の症状が見られる場合も出席停止の措置をとります。ご理解とご協力をお願いします。ご不明な点については、学校にご連絡ください。また、児童と同居するご家族に関わるコロナ疑いに係る情報については、早急に学校へご連絡ください。「よくない情報ほど早く」が基本です。よろしくお願いたします。